

平成28年度
日本リンパ学会理事会 議事録

平成28年6月23日(木)

平成28年度 日本リンパ学会理事会 議事録

日 時：平成28年6月23日（木）：17時00分～18時
場 所：東京大学伊藤国際学術研究センター3階「特別会議室」（東京都文京区本郷7-3-1）
出席者：大槻勝紀、大橋俊夫、北村薫、木股敬裕、清野宏、佐々木寛、下田浩、夏越祥次、
日比紀文、穂苺量太、前川二郎、三浦総一郎、渡部徹郎（常任理事・理事）
（理事28名中13名出席・委任状13名）
朝倉均、内野滋雄、加藤征治、渡辺寛（名誉会員）

（五十音順、敬称略）

会議冒頭に熊本地震において犠牲となった方々に対し、黙祷が行われた。

議題

1. 庶務報告

平成28年4月30日現在の会員数とその内訳が報告された。ここ5年間で会員数が100名ほど増加したことが報告された。

2. 平成27年度決算報告・監査報告・平成28年度予算について

平成27年度決算について大橋理事長より報告があった。収入について、会員数の増加による年会費収入が増加したこと、広告収入が減額となったことが報告された。支出について、昨年度今回限りという条件の下で認められたため、リンパ浮腫療法士認定機構への補助金、国際微小循環学会および解剖生理合同学会への補助金が支出されたことが報告された。また、財産目録として国債があることが報告された。

会計監査の三浦常任理事からの監査報告を受け、平成27年度決算について承認を受け、評議員会・総会に諮ることとした。（評議員会・総会にて承認された。）

平成28年度予算案について大橋理事長より説明があった。収入において、今年度で国債が償還となるが、今後も元本が保証されている国債で引き続き運用していきたいとの意向が示された。ただし日本の経済状態より、債券利金については今後今回ほど収入が見込めないことが説明された。支出について、今年度は上記、認定機構や国際学会、シンポジウムなどへの補助金の計上はせず、従来通りとした旨説明があり、承認され、評議員会・総会に諮ることとした。（評議員会・総会にて承認された。）

3. 雑誌「リンパ学」の編集状況について

雑誌の編集については、順調に行われていることが報告された。

今回、38巻2号へ掲載された原著論文への意見が送られてきたため、意見者と著者両者に了承を得た上で、ご意見を現在編集中の第39巻1号へLetter to Editorとして掲載する旨報告された。

4. 新役員の推薦・承認について

名誉会員として伊藤恒敏先生、金澤暁太郎先生、清木勤治先生を、特別会員に、小川泰弘先生が推薦され、了承された。また、新理事として伊古美文隆先生（防衛医科大学校教授）、太田恵一朗先生（日本医科大学教授）（江崎太一先生推薦）、小川佳宏先生（リムズ徳島クリニック理事長）、河合佳子先生（東北医科薬科大学教授）が推薦され、了承された。以上、評議員会・総会に諮ることとした。また、評議員会・総会で承認された折には、河合佳子先生を常任理事に委嘱したい旨諮られ、了承された。（評議員会・総会にて承認された。）理事、評議員については、適切な方がいらっしゃったら事務局までご連絡いただきたいと理事長よりお願いがあった。（必要書類が事務局にございますのでご連絡ください。）

5. 第40回日本リンパ学会総会について

第40回会頭 清野宏常任理事より今回の学会についての説明があった。

Award Session の審査員について、理事長・清野会頭・三浦常任理事の3名で行うことが報告された。

6. 次期(第41回)日本リンパ学会総会について

第41回(平成29年度)会頭 夏越祥次常任理事より次回の学会についての説明があった。

会期は平成29年6月2日～3日、会場は鹿児島県医師会館(鹿児島中央駅前)にて行われる予定であることが報告された。テーマは「リンパ系を多面的に解く」として行われる予定であることも報告された。

7. 次々期会頭について

次々期(平成30年、第42回総会)会頭は、下田浩常任理事(弘前大学・生体構造医科学講座)を推薦したい旨理事長から諮られ了承され、承認された。下田先生よりご挨拶いただき、評議員会・総会に諮ることとした。(評議員会・総会にて承認された。)

前川理事より、静脈学会の日程6月14日、15日と重ならないようお願いしたいとお話があり、下田先生から21日、22日を検討している旨報告があった。

8. その他

(1) リンパ浮腫学会とリンパ浮腫治療学会について

この度リンパ浮腫に関する二つの学会、日本リンパ浮腫学会(理事長;廣田彰男先生)、日本リンパ浮腫治療学会(理事長;重松宏先生)が、設立されたことが報告された。理事長より、日本リンパ学会としては、基礎と臨床共にアカデミズムを中心に活動を行い、両学会に対してはその活動を見守り、中立の立場を取っていくことが説明され、了承された。

市民公開講座については、今まで患者さん向けにリンパ浮腫に関するテーマで開催してきたが、両リンパ浮腫に特化した学会が設立されたこともあり、今後日本リンパ学会としての開催の有無も含め内容等会頭に一任することが諮られ、了承された。

またリンパ浮腫に関する研究会については、今後後援を依頼された時には、両学会へ相談していただくようにする旨説明され、了承された。

(2) 若手の会について

現在、夏に浅間温泉でセミクローズドでのリンパに関する勉強会を行っており、来年第5回を開催予定であるが、第6回以降、将来的に学会より経済的援助を施し、世界に通ずる日本リンパ学会の若手リンパ学研究者育成の場として、サマースクール形式での開催としていく旨理事長より提案され、了承された。また、他学会や海外でも若手育成の動きがあることが報告され、日本血管生物医学会での若手研究会の活動について渡部先生よりご紹介いただいた。

前川理事より、基礎より臨床に近い研究者でも参加してよいのか質問が出され、理事長より、研究は患者さんや臨床に帰納できるような所を最終ゴールに意識しながらやるべきだと考えているので、お互いディスカッションできるようにしていきたいとの回答があった。

(3) リンパ浮腫大規模臨床試験について

経済的問題と、リンパ浮腫に特化した学会が設立されたことも鑑み、当面の間見合わせる事となった。

(4) リンパに関する用語集について

日本リンパ学会として、基礎、臨床、色々な分野の先生にご協力いただき、大谷常任理事と相談しながら今後も検討していくことを確認した。

(5) その他

木股理事より、リンパ浮腫についてチーム医療を組んで行っているが、リンパ浮腫の学会が2つ立ち上がり、勤務している者は戸惑っている。2つの学会に所属されている理事、常任理事の先生には今後患者さん、国民のために、透明性のある効果的な学会にしていきたい。また我々地方の大学に、どの学会に出たらいいか指導していただきたいとのお願いがあった。それに対し、理事長より、今後情報収集を行い、日本リンパ学会は国のためにもエビデンスがある程度明確にし、患者さんや診療に携わる方にも分かりやすいようなデータを提供していくこと、また両学会の理事長とも必要があれば連絡を取りながら、みなさんに情報を提供していくことなど、鋭意努力していく意向が示された。

報告事項

1. ゴードンカンファレンスについて

渡部常任理事より、3月にカリフォルニアのベンチュラで開催されたリンパに関するゴードンカンファレンスについて、報告された。主に3つのリンパ学のトピックスについてご紹介いただいた。また、リンパ管、リンパ球、生理学が一緒になっている学会は世界的にも珍しく非常に興味をもたれたが、日本には国際ネットワークの窓口が無いとのことで、お認めいただければ日本リンパ学会を、Lymphatic Education & Research Network (LEARN) の日本における窓口にさせていただき、若手、基礎臨床問わず、世界に羽ばたいていける様なパイプにしたいとのお願いがあった。

理事長より、リンパ系の国際学会、研究会等の現状が報告され、今後日本リンパ学会の国際学会・研究会担当常任理事として、渡部先生に担当していただくことが提案され、承認された。

下田常任理事より、昨年夏に開催された国際リンパ学会について、以前に比べ活動が低下しており、今後活動力を上げていく必要があることが報告された。前川理事から、国際リンパ学会 (ISL) や European Society of Lymphology (ESL) など、臨床系では活発に討論されているが、日本人の発言が弱いので、日本人の発言力を高めていく必要があることが報告された。

理事長から、今後も国際学会に参加された際にはご報告をお願いしたい旨依頼があった。

2. その他

(1) 厚生労働省後援リンパ浮腫研修における運営委員会委員選出について依頼があり、紙上常任理事会の結果、北村薫先生と佐々木寛先生を推薦したことが報告された。北村常任理事より現況が報告された。

(2) Tie2・リンパ・血管研究会第1回学術集会への共催依頼があり、紙上常任理事会で承認されたため、承諾したことが報告された。

(3) 保険収載の現状について、理事長より説明があった。

以上